

Fusyo Collaboration letter

8月29日 No.22 文責 廣田 秀俊



よさを取り上げて安心して話せる場へ

「ほめ言葉のシャワーを考えた人です」の言葉に「えっ！」と反応する子供たち。8月26日に附属小学校の学びを深めるため、「ほめ言葉のシャワーの生みの親」である、菊池省三先生を講師としてお招きしました。

「笑顔の45分にしたい！」と3-2の教室に入ってくる菊池先生を本気の拍手で迎える児童の姿がスタートでした。菊池先生が、3年生のフリートークを参観した時のよさを伝えてくれます。“アイコンタクト・拍手・正対・笑顔”。子供たちが常に意識している項目が次々とあがっていきます。“ちょうどいい大きさの声・ちょうどいいスピード・ていねいな言葉・価値語”。さらには“リアクション・うなずき・組み立て”。

たくさんの項目をクラスみんなで確かめ合い、出てきた項目の中から自分なりのランキングを決めていきました。どの項目が大事なのか、個から班へ、そして全体で決定します。3年2組では①拍手②笑顔③正対という結果が出てきました。自分で考えたことをみんなで話し合った答えとして出てきたものです。先生から、発表＝(ことば＋声＋基本・動き)×❤️という公式を習い、うなずき納得顔の子供たちの顔が授業の中で見られました。



5年生の教室では、ほめ言葉のシャワーについて子供たちに問いかけをしてくれました。

「ほめ言葉のシャワーは儀式か祝祭か」2つのグループに分かれ、意見をぶつけ合います。

<儀式派>

- ・1～6年生みんなでやっているから
- ・みんなで一人を祝う儀式だから
- ・ていねいにやっているから
- ・一人のためにみんなで協力しているから 等

<祝祭派>

- ・ほめ合うのは祝うことだから
- ・嬉しくなることだから
- ・1年に数回しかない大切なものだから
- ・Happyな感じがするから 等

5年3組の子供たちとも、“内容・声・行動(非言語)”についての重要性を確認していきました。

菊池先生からの提案で、「何か分からないけど、やってみよう！と思う人」と立候補者を募り、ある活動を行いました。それは担任への“ほめ言葉のシャワー”でした。みんなが笑顔の時間となりました。



教職員へ向けての講義の時間も設けていただき、さまざまなことを学ぶことができました。“フリートークのグランドルールのこと” “ルールのある話し合いを日常生活へつなげること” “「輪」「話」「和」の三つの「わ」の大切なこと” “対話をすすめるための学級経営のこと”など、ここには書き切れないほどの教えをいただきました。そして「失敗は成功につながるチャンス。コミュニケーションに失敗はない」という先生の言葉から、大人も子供もたくさんのチャレンジが必要なことを改めて見つめ直していくことができた時間となりました。

